

群分離・核変換技術評価ワーキンググループの設置について（案）

令和 3 年 ○ 月 ○ 日
科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会
原子力科学技術委員会
原子力研究開発・基盤・人材作業部会

（趣旨）

ADS（加速器を用いた核変換技術）を中心とした群分離・核変換技術については科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会原子力科学技術委員会群分離・核変換技術評価作業部会において検討を行い、平成 25 年 11 月には「群分離・核変換技術評価作業部会 中間的な論点のとりまとめ」を行っている。本とりまとめにおいては、「実験室レベルの段階から、工学規模の段階に移行することが可能な研究開発段階にあり、このため、J-PARC に核変換実験施設（工学規模の試験施設）を整備することが期待される」ことや「高速炉サイクルによる核変換技術との相互比較評価や核変換実験施設の実現性のチェックアンドレビューを行いながら研究開発を進める」ことが指摘されている。また、これを踏まえ、原子力機構の中長期目標・計画においても施設の建設着手を目指すことが明記されている。

令和 4 年度から新たな原子力機構の中長期目標・計画を策定するにあたり、群分離・核変換技術についても、我が国の現在の技術レベル、国際的な研究開発の状況、関連分野の技術の進展や産業界の動向等を踏まえ、核変換実験施設の実現性について再評価し、必要な研究開発について整理する必要がある。

上記を踏まえ、本作業部会の下にワーキンググループを設置し、以下の調査検討事項に対し集中的に議論を行うものとする。

（調査検討事項）

1. ADS 研究開発の国際動向と技術評価について
2. 実証施設の在り方について
3. 研究開発項目のリストアップについて
4. その他